

報  
讐  
獺<sup>ヲ</sup>  
狂<sup>ク</sup>  
尾<sup>ヲ</sup>  
夫

13  
2056  
29





前座

中座

後座

放はならか鐵炮てつぱうのく欄らん年とし本ほん間ま手て煉れん  
附つり女人に小こ婚こん人に色いろと欲望ぼうれい成なりてま交まわりてく  
土つち産うまへる妻の綿木わたぎ乃な結むす細こ

懸かる言願げんの冒我が社やしろ小こ女め者もの心こころ  
附つり懐圖ず射や七しち体たい想そうと忠誠しんせつ瓜うり吹ふの身代しろ

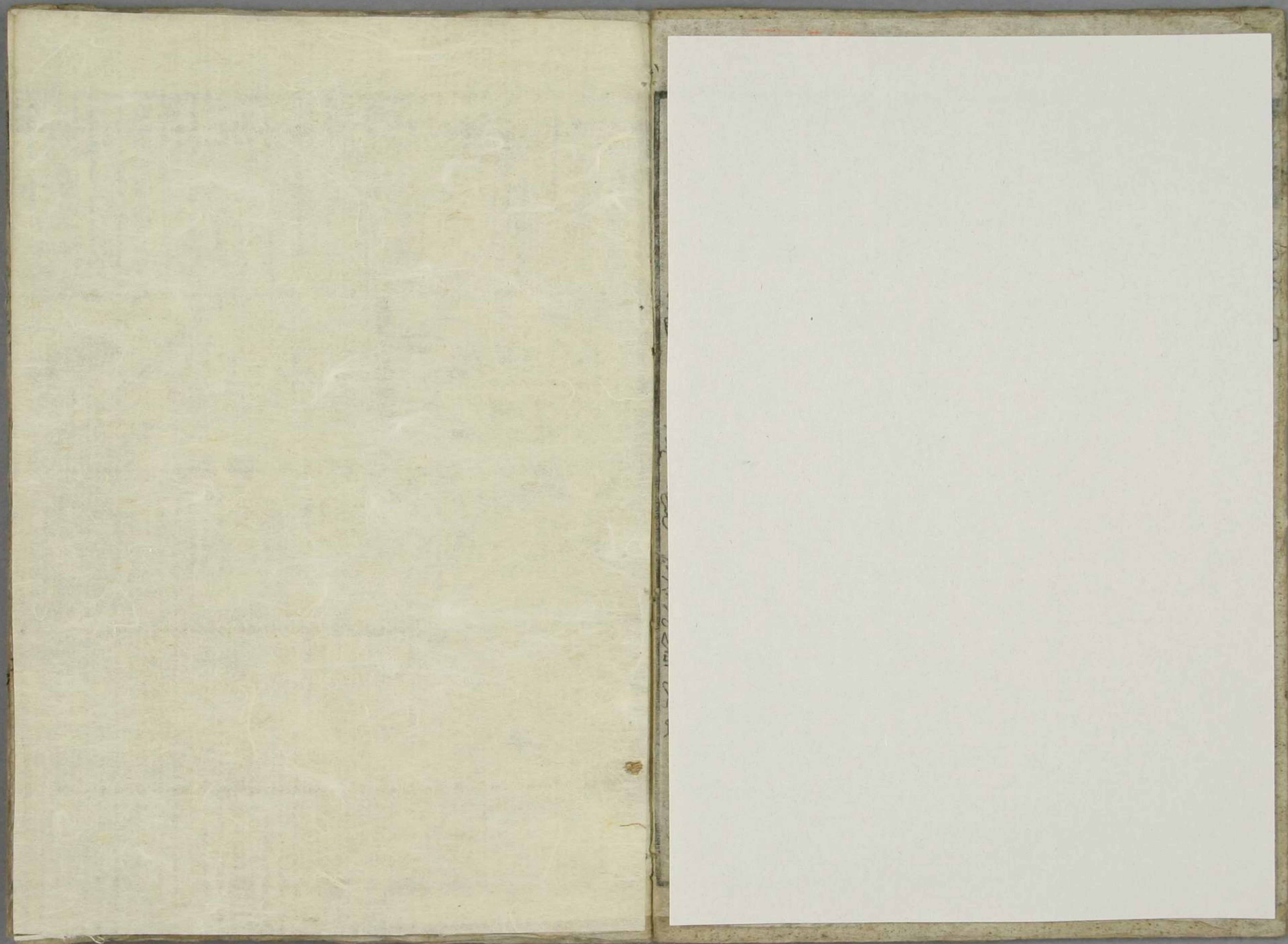
討うちらか雙言ごん敵てき神かみ田の慧えい空くう年とし本ほん間ま手て煉れん  
附つり堤一いつ筋しん合あ六む時じ若わか者ものと悪く成る馬の尾  
橋はし木き小こ進しん門もん草くさ子この大尾おし

丙辰正月より晴雨と

講師

馬琴 園











ちりけりあると成候  
 からまふにせむと世  
 とりひとののしと  
 り候のこせりとの  
 ままのふとつふ  
 ままのふとつふ  
 百人にとり候と  
 りと成候とつふ  
 ちりけりあると成候  
 からまふにせむと世  
 とりひとののしと  
 り候のこせりとの  
 ままのふとつふ  
 ままのふとつふ  
 百人にとり候と  
 りと成候とつふ



けりては  
 ちりけりあると成候  
 からまふにせむと世  
 とりひとののしと  
 り候のこせりとの  
 ままのふとつふ  
 ままのふとつふ  
 百人にとり候と  
 りと成候とつふ

けりては  
 ちりけりあると成候  
 からまふにせむと世  
 とりひとののしと  
 り候のこせりとの  
 ままのふとつふ  
 ままのふとつふ  
 百人にとり候と  
 りと成候とつふ



けりては  
 ちりけりあると成候  
 からまふにせむと世  
 とりひとののしと  
 り候のこせりとの  
 ままのふとつふ  
 ままのふとつふ  
 百人にとり候と  
 りと成候とつふ









され八人の...  
 つら...  
 志賀園七...  
 秋山...  
 三井半...  
 栗津...  
 清太郎...



曲に...  
 わ...  
 ま...  
 つ...





このめかたにわかれ  
 さらさらの髪をまげしめり  
 あのかもさらさらこれに  
 与後能いなるるまよの  
 いそににまのりつさぬ  
 さいごのりあま  
 わそゆめいあま  
 まさくまむくさ  
 せかひーとさる  
 こそい今あわ  
 他さしさいんさ  
 ませんばあふさ  
 志賀まき七きり  
 八人のうちこのまの  
 志賀まき七きり  
 七そのまきい  
 文よけ  
 ひらりざり  
 八人のまき一人  
 うらさ  
 せむくとのまき  
 まねんか



八人のうちこのまのま  
 他まき七きり  
 志賀まき七きり  
 八人のうちこのまの  
 志賀まき七きり  
 七そのまきい  
 文よけ  
 ひらりざり  
 八人のまき一人  
 うらさ  
 せむくとのまき  
 まねんか















神田の神の御ついでに  
 とそれより夏を平定しよ  
 うまらうと云ふにこそはあ  
 くわいなどともなるあはれに  
 ふしきあるは白くもあはれ  
 志のあらうと云ふにこそは  
 七人のとをよふと云ふにこそは  
 夏を平定しよ  
 七人のとをよふと云ふにこそは  
 志のあらうと云ふにこそは  
 七人のとをよふと云ふにこそは



七人のとをよふと云ふにこそは  
 志のあらうと云ふにこそは  
 七人のとをよふと云ふにこそは

神の御ついでに  
 とそれより夏を平定しよ  
 うまらうと云ふにこそはあ  
 くわいなどともなるあはれに  
 ふしきあるは白くもあはれ  
 志のあらうと云ふにこそは  
 七人のとをよふと云ふにこそは  
 夏を平定しよ  
 七人のとをよふと云ふにこそは  
 志のあらうと云ふにこそは  
 七人のとをよふと云ふにこそは



七人のとをよふと云ふにこそは  
 志のあらうと云ふにこそは  
 七人のとをよふと云ふにこそは

















世のいとしは  
あそんむるうちに  
しんせまひを  
あいのわけのそり  
とつこふまわらけ  
まごわけすねよ  
そはさりまらけ  
らんけ  
うどんけ  
のそり  
さあせり  
かつとまら  
まら

てわふそか  
よめらりあふ  
こふもそが  
らんよめが  
あつるそり  
のうちいそご  
まらね

かたはる  
おとこ  
あつる  
まら



世のいとしは  
あそんむるうちに  
しんせまひを  
あいのわけのそり  
とつこふまわらけ  
まごわけすねよ  
そはさりまらけ  
らんけ  
うどんけ  
のそり  
さあせり  
かつとまら  
まら

てわふそか  
よめらりあふ  
こふもそが  
らんよめが  
あつるそり  
のうちいそご  
まらね

あつる  
まら  
あつる  
まら









ちのぶらんとくく八人のさねと  
 うらりりわうらりしやまら  
 わさしとあきまうらうらひま  
 まんせんとまへちのぶらひ  
 のさ人ならまらちてうらり  
 るんトつてふのまのさ  
 とひゆあむわとあつた  
 ひまのさつたあま  
 のさつたあま  
 まつたあまの  
 神さつたあまの  
 時まつたあまの  
 とまつたあまの  
 ままつたあまの  
 るまつたあまの  
 ーは女のまつたあまの  
 のまつたあまの  
 がまつたあまの  
 そまつたあまの  
 かつまつたあまの  
 をまつたあまの  
 そのまつたあまの  
 てまつたあまの  
 わまつたあまの



曲亭馬琴作圖



